

移民2世と〈教育〉 —『多様性と格差』という 難問に向き合うために—

2026年6月26日

関西大学人権問題研究室 第124回公開講座
委嘱研究員 山野上麻衣（人種民族問題研究班）

1

今日の講座の進め方

- 画面の片方にスライド、片方に読み上げ用の文章が映ります
- できれば、話を聞きながらスライドのほうを見ていてください
(配布資料には、あえて載せていない部分もあります)
- パソコンの操作の関係で、座ったまま進めさせていただきます

2

2

Q. 日本に移民は存在するか？

- 「日本には移民はいない」??
- 「ガイコクジン」とは何がちがうのか??

←（最近の）日本政府は、「移民」を極端に狭く定義している

3

3

そもそも、移民とは？

- 国際移民 (international migrant)
- 「国際移動して、1年以上暮らしている人」
- 目的や在留資格は問わない
- 「骨を埋める覚悟」のイメージではない

• Someone who changes his or her country of usual residence, irrespective of the reason for migration or legal status if duration is at least 1 year (United Nations, 1998. Recommendations on Statistics of International Migration, Revision 1. Statistical Papers, Series M, No. 58, Rev.1)

4

4

A. 日本に移民は存在するか？

- 「外国人観光客」以外の「外国人」は、ほとんどが移民
- 客観的に数値をみれば「日本は積極的な移民受入国といえる」ともいわれる（是川2025）

5

5

今後のために、移民の受け入れを？

- 「人口減少や高齢化のために移民の受け入れを・・・」
- 介護業界も人手不足で、外国から来た職員が増えている
- 特定技能「飲食」の枠が予想外に早く上限に達して新規受入停止となり、いろいろな人が困っている

6

6

移民なしでは暮らしていけない

- もっと前から、移民なしでは私たちの生活は立ちいかない
- 自動車・スマホの組み立て「お弁当」工場（コンビニやスーパーのお惣菜）などの製造業
- 農業や水産加工業

7

7

「外国人問題」？

- 最近の政治家のいう「外国人問題」≠移民問題（樋口・稲葉・高谷2026）
- 政治争点化に伴い、バックラッシュは激しい
- 今日は、移民を「これまでも日本社会で暮らしてきた人たち」と捉えながら、そのような人たちの存在を通じて、日本社会のあり方を見つめ直す機会にしたい

8

8

移民の「世代」の考え方

- **移民第一世代（1世）** = 自分の意志で国際移動した大人
- **移民第二世代（2世）**
- 子どもとして（自分の意志ではなく）親に連れてこられたか、（少なくとも片方の）親が移民1世で、日本で生まれた人
- ≡ 「外国にルーツがある」が、日本で育った人
 - 15歳から18歳での移動は、状況によって移民1世・2世いずれの場合もある
 - 現在小中学校にいるブラジル人の子どもなどは、3世の場合もある（親が日本育ちの2世）

9

9

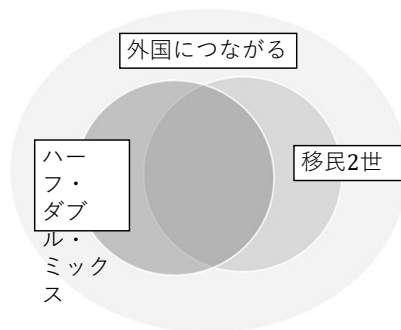
「外国につながる子ども」とは違うの？

- 「移民」は世界的に使われる表現
- 「外国につながる」などは、子どもについての文脈で主に使われる日本独自の表現
- 「外国人」と呼ぶ排他性を避け、日本国籍の子どもの存在も視野にいれながら、ルーツの尊重や、支援の必要性を訴えるために使われてきた

10

10

概念の重なり合い

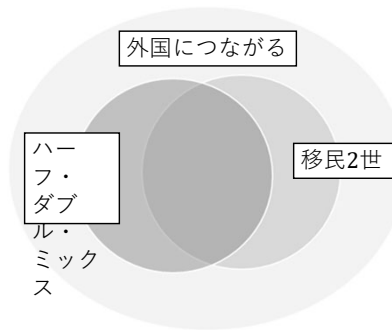


- 「外国につながる」は広い
- 1世や3世、4世も含む
- ハーフ・ダブル・ミックスも、どちらかの親が国際移動していれば移民2世に当たる
- どの呼び方でも、日本国籍・外国籍（・二重国籍）いずれもあり得る

11

11

傷つけないために知っておきたいこと①

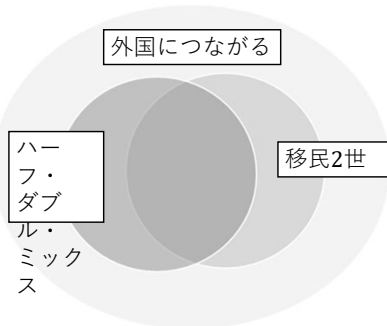


- どの括り方も、家族の移民歴または人種・エスニシティを表現するもので、言語能力とは関連しない
- 「英語ができる」などと決めつけてはいけない。「日本語上手ですね」も、場合によっては相手を傷つける = 「マイクロ・アグレッション」

12

12

傷つけないために知っておきたいこと②

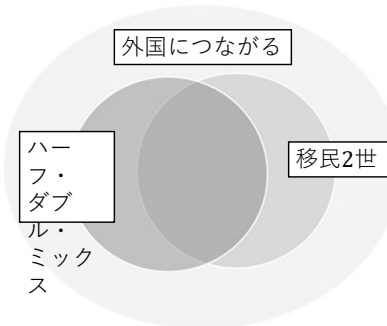


- 自分をどう表現するか（しないか）は、その人の考えがある

13

13

傷つけないために知っておきたいこと③



- 本人は、ルーツを必死で隠していることがある。そういうときに、悪意はなくても、ルーツをばらしてしまうのはアウティング行為（樋口ほか2026）

←資料最後の「読書案内」に掲載

14

14

今日の講座の裏テーマ

- 「移民」について考えることを通じて、日本社会についての思考をほぐす
- 「当たり前」だと思っていたことが、実はそうではないことに気づく

15

15

〈教育〉について考える

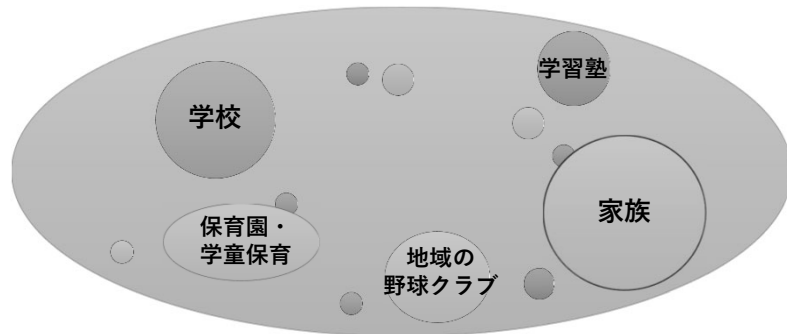
〈教育〉？

- 「学校教育」のイメージと距離を置く
- 〈教育〉＝「他者への意図的な働きかけ」

16

16

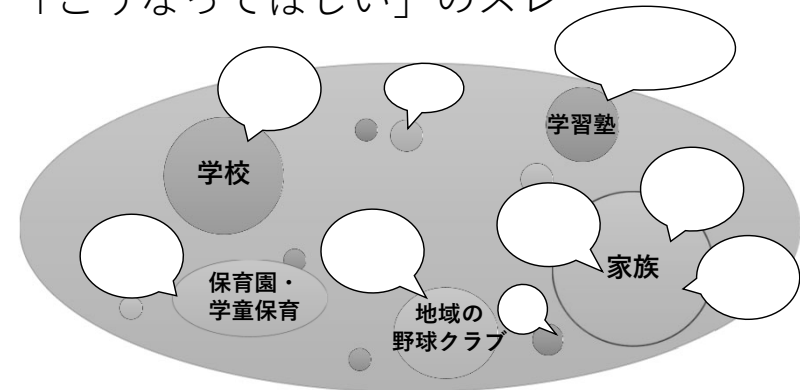
〈教育〉が生じる場



17

17

「こうなってほしい」のズレ



18

18

「こうなってほしい」の対立

- 「その子のペースで」 ⇔ 「みんなと同じように」
- 「自分らしく」 ⇔ 「しっかり勉強してほしい」
- 学校では、「みんなと同じように」ふるまえること、進学や就職を見据えて「しっかり勉強すること」が求められがち

あなたの
将来のため
に！！

19

19

移民の場合は…

- 移民...子ども（2世）自身の考えや願いも、親（1世）の考え方も、日本社会で育ってきた親子とはズレやすい
- 子ども（2世）は、必死で「日本人」になろうとすることも
- 親子ですれ違ってしまうこともある

20

20

みんなちがって、みんないい？

「金子みすゞ、童謡全集」(JULA社版)

「私と小鳥と鈴と」
私が両手をひろげて、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんな
いい。

21

21

例題（みんなちがって、みんないい？）

- 移民の子どもたちのための地域の学習支援教室
- 火曜日と金曜日に教室を開いている
- 15歳（中3）の男の子が来日
- 「日本で高校に行きたい」と学習熱心で、親も応援
- 宿題を出すと必ずやってくる
- しかし、火曜日は休まず来るのに、金曜日は一度も来ない
- 「火曜日も金曜日も来れば、なんとか入試突破できそうなのに、困ったなあ...」

22

22

みんなちがって、みんないい？

- この15歳の男子生徒が金曜日に教室に来ないことも、人それぞれだから、「みんなちがって、みんないい？」
- 金曜日に来ない理由がなんであれ、これで入試に間に合わないとは自己責任？

23

23

実際の事情と、対応

金曜日に教室に来ない事情

支援団体の対応

24

24

実際の事情と、対応

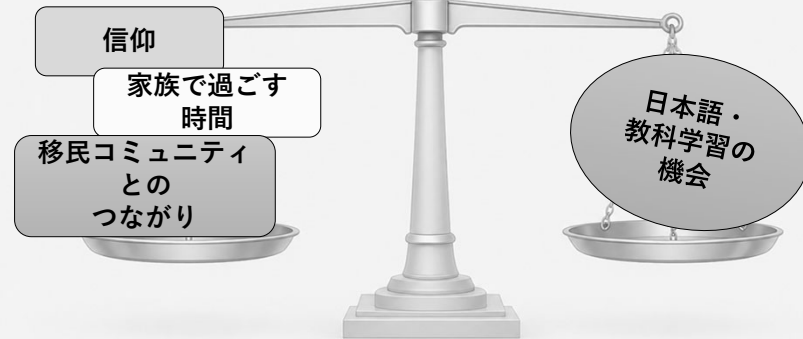
金曜日に教室にこない事情

支援団体の対応

25

25

何と何の選択？



26

26

どちらかしか選べない？



27

27

Q. 学校教育における平等とは何か？

28

28

A. 学校教育における平等とは何か①

- 教育学者の答え：
- たぶん、ばらける

29

29

A. 学校教育における平等とは何か②

- 教育社会学者の答え：
- ほぼほぼ一致する（例外はある）

30

30

マジョリティの「善意」



31

31

〈教育〉の現場あるある

- 「親（移民1世）はしょうがないけど、子ども（移民2世）は自分の意思で日本に来たわけじゃないから、ちゃんとした大人になれるようにしてあげないとね」
- 親が不安定な仕事をしていればしているほど、支援者はこう言いがち

32

32

つっこみどころ

- 「親（移民1世）はしょうがないけど、子ども（移民2世）は自分の意思で日本に来たわけじゃないから、ちゃんとした大人になれるように支援しないとね」

⇒①「親はしょうがない」？

②「ちゃんとした大人」って何？

33

33

「ちゃんとした大人」への道

- 「これが普通」「これが正しい」という「大人への道すじ」のイメージは、社会によって異なる

34

34

日本の「ちゃんとした大人」への道



35

35

日本の「全員参加のレース」の特徴①

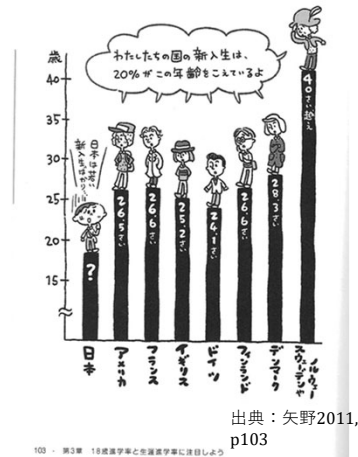
- 「よい学校を目指し、卒業時によい会社の正社員になる」
- 道は一本しかない
- 全員一斉に参加しなければならない
- ゴールは五合目、七合目などにもある（高卒、専門学校卒）
- 「受験の日」に一発勝負で人生が決まってしまうイメージ（⇔「受験生」という概念はない国のほうが多い）

36

36

大学進学は18歳が 当たり前？

- 大学進学「18歳主義」
(矢野2011)
- 日本は先進国のなかで唯一、大学新入生の年齢が「18」(OECD 2023)
- 就職「22歳主義」にも連動



103 - 第3章 18歳進学率と先進国進学率に注目しよう

37

37

日本の「全員参加のレース」の特徴②

- 厳格な年齢主義
- 同じ年齢集団（学年）で競う
- 間断なく前に進む
- 日本の「新卒一括採用」と接続→正社員になるチャンスは18歳か22歳しかないとのイメージが強い

38

38

「全員参加のレース」長所と短所

それって、いつの時代の話??

よいところ	わるいところ
参加さえすれば何とかなる（考えなくてもいい）	ほかのゴール・ほかのルートは選べない（コースアウト後は自己責任）
ゴールまでたどりつけば、何かしらの「正社員」職に就ける	どんな事情があってもレースを抜けない（離脱後は自己責任）
みんなが同じルールのもとで競争するので平等である	平等の名のもとに序列化を肯定する

39

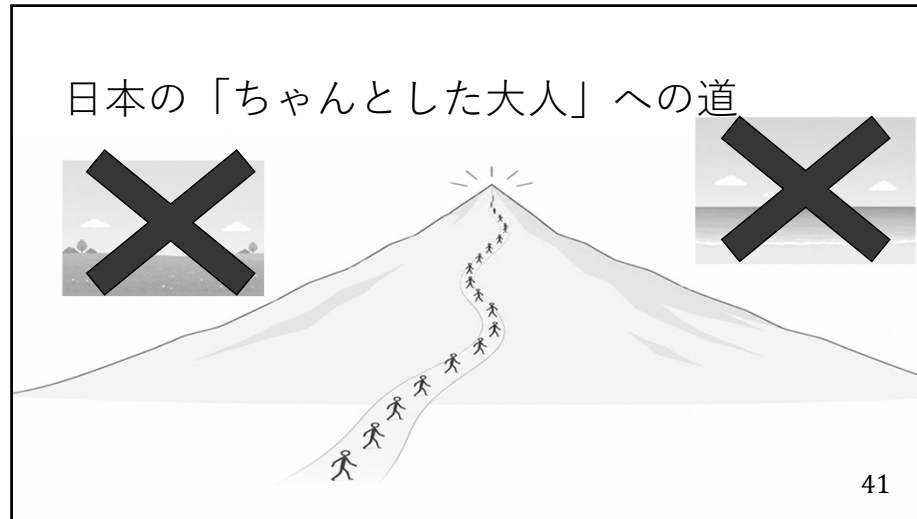
39

日本の「全員参加のレース」の特徴③

- 「ゴールにたどりつけば、みんなの分の椅子（正社員職）がある」と信じられる時代にレースのしぐみがあった
- 「正社員」になるためには、このレースに参加するしかない
- 「正社員」も、「新卒一括採用」も、日本独自のしぐみ（濱口2009）

40

40



41

高度経済成長期にできたもの

- 社会保障制度の形成：健康保険、住宅手当、家族手当などが「正社員」であることに結びつけられる
- 「男が正社員に、女は主婦に」なることで、世帯単位で「自立」することが「正しい生き方」のモデルに
- 「正社員」（またはその妻）にならないと生きていけない、幸せな人生は歩めないとのイメージが広がる

42

42

日本の「ちゃんとした大人への道」の完成

- 背景：経済成長とともに、人手不足が深刻な時代
- 高校と企業を結ぶ就職指導・職業斡旋（「学校経由の就職」）のしくみが完成（本田2005）
- 「学校を通じたレースに加われば、みんなどこかの正社員にはなれる」と信じられた

がんばればがんばるほど、
豊かになれる、成長できる！

43

43

前提が崩れていくときに・・・

1990年代以降:

- 高卒就職求人が減る→大学進学者の増加
 - 大卒者も含めた「フリーター・ニート」の社会問題化
 - 家族の社会経済状況による「学力格差」の顕在化
- ⇒ 解としての「全員参加のレース」の復活
= みんな正社員になれるよう、学力の平等を！

なんか
違和感...

44

44

移民2世への〈教育〉的まなざし

- ブラジル人が多い地域 = 製造業がさかん
- 親（移民1世）は、非正規雇用で工場で働く人が多い
- 「子ども（移民2世）が同じ道をたどりがち」であるとの問題意識
- 「多様な将来を！」というかけ声のもとでの画一的な「全員参加のレース」への押し込め

45

45

「全員参加のレース」は平等なのか なんか違和感…

- 受験競争の過熱化 → 「ゆとり教育」
- 家族の教育に対する意識が子どもの意欲の差を生む
- 「ゆとり教育をやめるべき」（荻谷2001）
- ゆとり教育をやめたら平等になるのか？？？
- 「親ガチャ」という語の流行

46

46

A. 学校教育における平等とは何か③

- 戦後の教育行政関係者の答え：
子ども全員に「同じ環境を与える」こと（荻谷2009）
- それが理想的だから目指したわけではなく、
「お金がない」ために、それしか目指せなかった

47

47

「学校教育の平等」を目指して…

- 戦後、日本では学校教育を刷新
- 海外先進国の理念「個の平等」 ⇄
- 日本が目指したこと「面の平等」（荻谷2009）

48

48

「個の平等」と「面の平等」

個の平等	面の平等
「個人」を単位に資源配分の平等を考える	学級や地域といった集团的・空間的な集合体を単位に資源配分の平等を考える

「みんなちがう」が出发点

「みんな同じ」が出发点

49

49

「面の平等」の展開

・「舞台（学校の施設・設備）、台本（教科書と学習指導要領）、小道具（教材）から、さらには役者（教員）まで標準を定め、これらの教育資源を均質化しようとする。それが、面の平等を通じた、教育機会の平等の戦後日本的な表現であった」。

・このように標準化が進展したことにより、「だれもが同じスタートラインに立っているという印象を与え、学校を通じた業績主義的選抜の公平さを印象づけた」（荻谷2009: 250）。

50

50

「面の平等」をどう評価するか

- ・「仕方がなかった」
- ・「結果的には、全体として学力があがった」（荻谷2009）
- ・「平等＝画一性」という発想を深く根づかせてしまった
（画一性が多様性を許さない抑圧へとつながる）

51

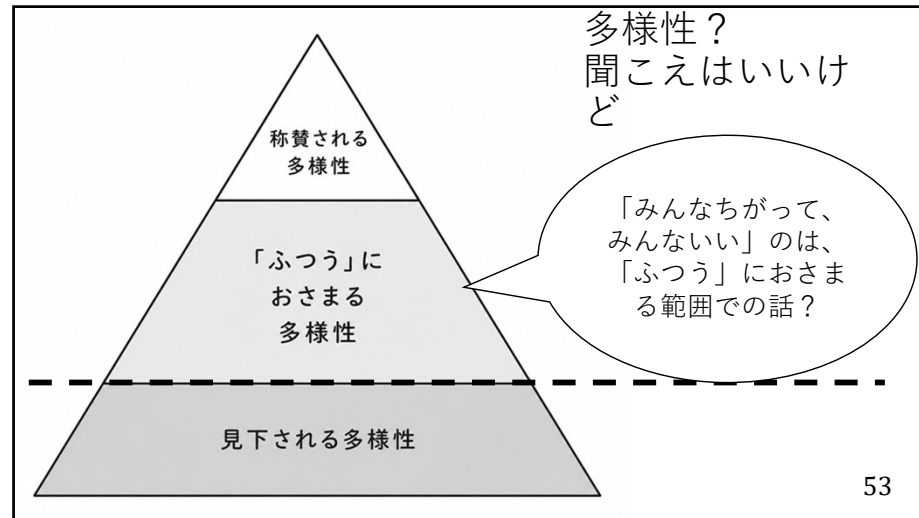
51

学校で期待される「ふつう」

- ・「みんな同じ」を前提として整えられた、同じ学校、同じカリキュラムで、一斉に、同じテンポで学ぶ
←移民の子どもたちにとっては、そもそもの前提からしてムリ
- ・「そこに乗っていけるのが「ふつう」」
- ・「ふつう」の範囲内で、人よりも優秀なのがいい

52

52



53

「ふつう」への囚われ

- (将棋やサッカーなどで活躍できる特別な人たち以外の)「ふつう」の子どもは、「ふつう」に「ちゃんとした大人」になるために、それなりに真面目に学校で勉強し、「正社員」にならないといけない
- そうしないと結婚もできず、「ふつう」に幸せな人生は送れない

54

54

「ふつう」の押しつけ

- 貧困家庭とか、日本語ができない親のもとで育つとか、そういう子どもは「ふつう」になれなくて、かわいそう！
- 「ふつう」になれるように助けてあげなきゃ
- (でも、昔のように「全員参加のレース」への参加が正社員職を保障するわけではない、正社員になれたら安泰という時代でもない)

55

55

いまのままで大丈夫？

- 不登校率はあがりつつける
- 子どもの死亡理由1位「自殺」
- 日本の子どもの幸福度は世界的にみて低い
- PISAランキング「自分には生きる意味や目的がある」ダントツで堂々の世界最下位！！(本田2021)

56

56

異なる社会・異なる学校を思い描く

- 「いまの学校」、「いまの社会」から「はみ出した」人を押し戻そうとする以外の道は？
- いまの日本社会、日本で「正しい」とされる大人への道、日本の学校教育のありかた、そういうものが、どういう文脈でできてきたのかを知る（相対化する）
- その「正しさ」や「あたりまえ」に染まっていない人たちの声を聞く

57

57

例①) 自分よりも家族が大事

- 自分の将来よりも、家族を優先する
- 正社員になって家族と過ごす時間がないよりは、それ以外の働き方がいい
- 仕事を失った親に代わって働き家計を支えるために、高校をやめる（山野上2023）

58

58

例②) やりたくなったら、やればいい

- 勉強は、したくなったら、そのときにやればいい
 - とりあえず工場で働いて貯金する
 - やりたい仕事ができたら、またそのときにそのための勉強をすればいい
- ←ブラジルでは大人が学べる場（9年間の基礎教育・3年間の高校教育）が多く、大学も働きながら通う人が多い、「大学生＝20歳前後」ではない

59

59

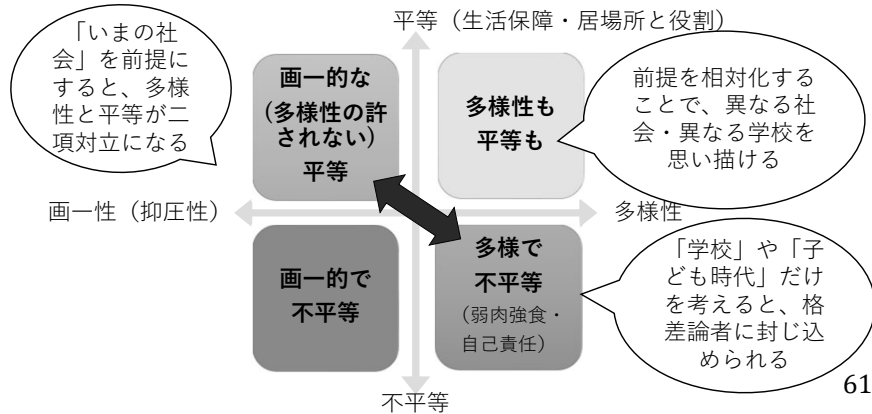
移民2世の異なる道と、異なる声

- 「正社員になる」ための一本道を外れていくような生き方の人たちが一定程度存在
- 家族のための自己犠牲が美しいという話ではない
- 当事者には当事者の論理がある
- 日本の正社員主義・年齢主義に囚われていると、当事者の論理は聞き取ることができない

60

60

二項対立に絡めとられないために



61

読書案内

- 具体的な「移民についての話」をもっと聞けると期待していた方、申し訳ありません…
- 入門的な本など、紹介しておきます

62

62

① 「移民の子ども」についての入門書

『にほんでいきる』

毎日新聞取材班 編 明石書店、2020年

- 新聞の連載記事をまとめた、読みやすい本
- 子どもたちの困難を知ることができる

63

63

② 当事者の声にダイレクトにふれる

『移民第2世代のオートエスノグラフィー』

樋口直人、山崎(王) 哲、大川ヘナン、オチャンテ・村井・ロサ・メルセデス、劉昊、王昊凡、吉岡(ヨシイ) ラファエラ、南誠、小波津ホセ、白晶晶(白皓)、オチャンテカルロス著
明石書店、2026年

- 当事者10人が自分の経験を書いた本
- 今日の講座でふれた「アウトティング」など、日本社会・日本の学校で育つことの苦しさを含め、リアルな感情が鮮やかに伝わってくる

64

64

③もっとも厳しい状況下で育つ子どもたち

『仮放免の子どもたち』

池尾伸一著、講談社、2026年

- ・日本社会から意図的に見捨てられ、人権や「子どもの権利」で守られない子どもたちの状況を知ることができる
- ・こんなことがほんとに日本で！？と思う人が多いはず

65

65

④日本社会の特殊性、変革の方向についてもっと知りたい

- ・今回の講座で紹介した論者による読みやすい本
- ・本田由紀、2021『「日本」ってどんな国？ — 国際比較データで社会が見えてくる』筑摩書房.
- ・本田由紀、2014『社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ』岩波書店.
- ・濱口桂一郎、2013、『若者と労働—「入社」の仕組みから解きほぐす』中央公論新社.

66

66

【参考文献一覧】

- ・苅谷剛彦、2001『階層化日本と教育危機—不平等再生産から意欲格差社会へ』有信堂.
- ・苅谷剛彦、2009『教育と平等—大衆教育社会はいかに生成したか』中央公論新社.
- ・是川夕、2025『ニッポンの移民』筑摩書房.
- ・濱口桂一郎、2009『新しい労働社会—雇用システムの再構築へ』岩波書店.
- ・樋口直人ほか、2026『移民第2世代のオートエスノグラフィー』明石書店、2026.
(第1章 山崎(王) 哲 「中国帰国者3世になる」)
(第9章 白晶晶(白皓) 「アイデンティティ・クライシスと憎しみを超えて」)
- ・樋口直人・稲葉奈々子・高谷幸2026「「外国人問題」という虚構：排外主義をめぐる右派と極右の空騒ぎ」『世界』(1004) 2026年3月.
- ・本田由紀、2005『若者と仕事—「学校経由の就職」を超えて』東京大学出版会.
- ・矢野真和、2011『「習慣病」になったニッポンの大学—18歳主義・卒業主義・親負担主義からの解放』日本図書センター.
- ・山野上麻衣、2023「「だって、家族だから」—南米系2世の大人への移行過程と家族の意味づけ」樋口直人・稲葉奈々子編、『ニューカマーの世代交代—日本における移民2世の時代』明石書店、21-68.

67

67